「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト活動報告

活動日　2025 年　5 月 25 日

活動名	第 19 回筑波山水源の森づくり	
活動団体名	NPO 法人地球の緑を育てる会	
活動目的	筑波山神社林内での活動 40－50 年前に植えられたスギ、ヒノキなどの針葉樹の人工林を間伐、除伐後、植栽地の造成、広葉樹を植樹し、水源の森、防災環境保全林としての機能向上を目的として針広混交林へと再生させる。	
活動内容	植樹祭事前準備として比較的細いスギ、ヒノキを間伐、充分な陽光の入る空間をつくり、間伐材を土留めに使用して植栽地を造る。5 月 25 日の植樹祭には 169 名のボランティアが参加、植樹地へと移動、参加者がカゴに分配された苗を運び上げた。心配された雨も奇跡的に上がり、霧の立ち込める幻想的な植樹地で、シラカシ、アカガシ、スダジイ、ヤマザクラなどの常緑、落葉広葉樹 600 本を一斉に植えた。植え終わると苗の保護のため、間伐材の葉で樹地全面を覆うようにマルチングして、全てを終了した。植え方を指導したのは、植横浜国立大学名誉教授・藤原一繪先生。長いこと継続しているこの活動、今年も怪我なく無事終了、皆さんに喜んで頂けてほっとしている。	
活動写真		
写真説明	間伐した丸太を移動して土留めにする	植える
活動効果	今回で 19 回目となる植樹で、これまで植えられた苗は、その年に応じて健全な森へと生長している。水源の森としての役割だけでなく、温暖化防止、地震、防風、水害、土砂崩れ防止など、災害から住民を守る役目を果たすことへの期待は大きい。災害の多い日本、植樹は防災の役目が大きいことを知ってほしい。	
今後の展望	造成作業に大変手間のかかる作業なので、沢山一度には植えられないが、こつこつと続けていきたいと思うし、荒れる山林が問題となっている日本の現状で、今後、この方法が全国的に広がるよう、広報していきたい。	